

1. 岩手大学三陸復興推進本部関係

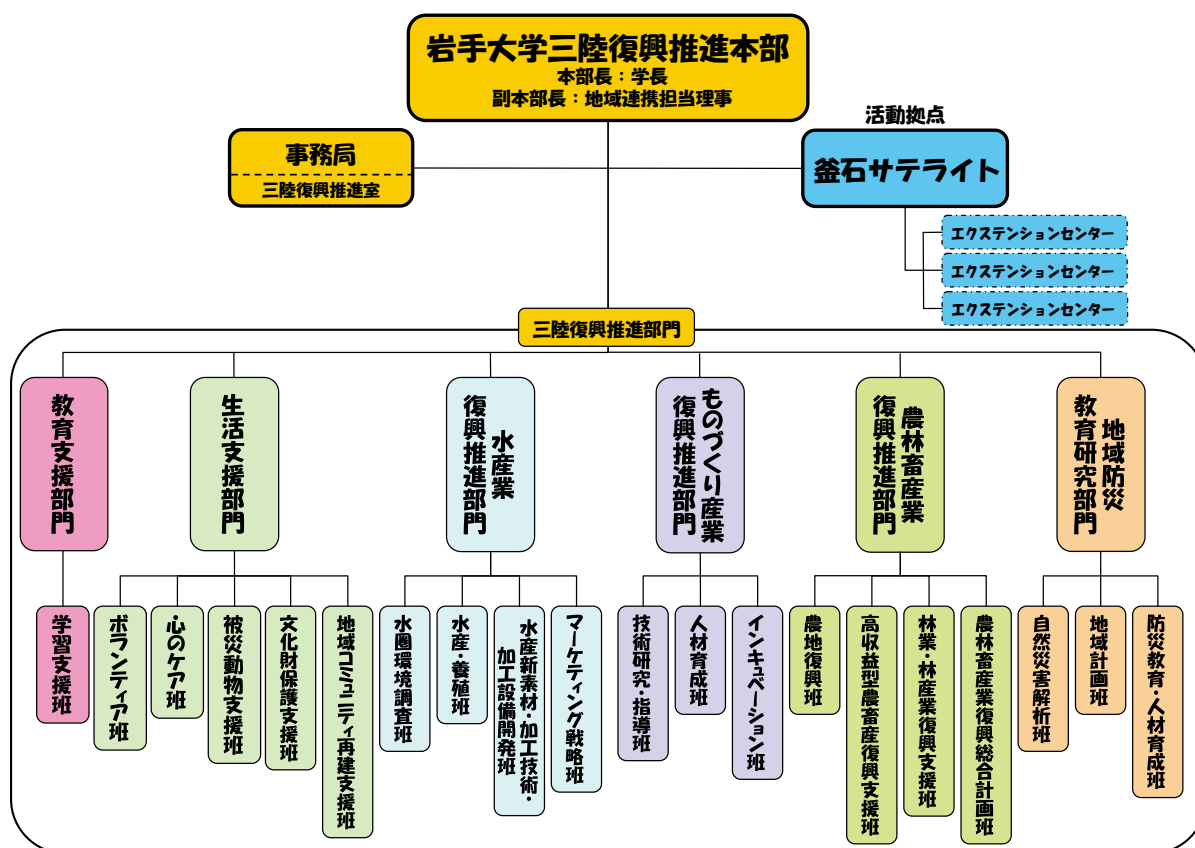
(1) 岩手大学三陸復興推進本部の設置について

三陸沿岸地域等の復興推進のため、6部門からなる三陸復興推進本部（本部長 藤井学長、副本部長 岩淵理事・副学長）を平成23年10月1日に設置した。関係自治体、協定大学等と連携を図りながら、①教育支援、②生活支援、③水産業復興推進、④ものづくり産業復興推進、⑤農林畜産業復興推進、⑥地域防災教育研究の事業を展開している。

また、三陸沿岸の復興の拠点として、釜石市に釜石サテライトを設置した。

岩手大学三陸復興推進本部会議、各部門の具体的取り組み等については、次のとおりである。

岩手大学三陸復興推進本部組織図



(2) 推進本部の会議（開催日・検討内容）

● 推進本部会議

回数	開催日	内容
1	平成23年 12月8日(木)	【議題】 1. 三陸復興推進の取り組みについて 2. 学外機関との連携状況について 3. 今後の予定について 4. その他 【報告】 1. 日経グローバル「全国大学の地域貢献度ランキング」掲載について 2. その他
2	平成24年 1月12日(木)	【議題】 1. 東京海洋大学及び北里大学との3大学連携会議(仮称)の設置について 2. その他 【報告】 1. 復興関係予算について 2. 各部門の活動状況について 3. 岩手大学震災復興推進レターの発行について 4. 創造的復興教育協会への参画について 5. その他
3	平成24年 2月9日(木)	【議題】 1. 岩手大学三陸復興推進機構(案)の設置について 2. 岩手大学三陸復興推進本部プロジェクト職員の選考に関する申し合わせ(案)について 3. その他 【報告】 1. 各部門の活動状況について 2. 本学ホームページにおける情報発信の強化について 3. その他
4	平成24年 3月8日(木)	【議題】 1. プロジェクト職員の採用について(生活支援部門、水産業復興推進部門) 2. 岩手大学三陸復興推進機構規則及び同運営委員会規則の制定について 3. 青森県産業技術センターとの復興研究に関する覚書について 4. 国立大学協会「平成24年度震災復興・日本再生支援事業」への申請について 5. 公益財団法人さんりく基金「平成24年度被災地復興支援助成事業」への申請について 6. その他 【報告】 1. 各部門の活動状況について 2. エクステンションセンターの設置について 3. 三陸水産業の復興と地域の持続的発展に寄与する3大学連携推進会議の開催について 4. 冊子「『岩手の復興と再生に』オール岩大パワーを～東日本大震災から1年間の取り組み～」の作成について(総務広報課) 5. いわて高等教育コンソーシアムの震災復興支援活動について(いわて高等教育コンソーシアム事務局) 6. 東日本大震災被災者への物件等提供の解除について(財務管理課) 7. 学生を対象とした「震災復興の取組」報告会の開催について(三陸復興推進室、学務課) 8. 震災復興対策経費(運営費)の執行状況について(三陸復興推進室) 9. 「大学等における地域復興のためのセンター的機能整備事業」平成24年度補助金交付に係るヒアリングについて 10. その他

(3) 岩手大学の三陸復興への取り組み

部 門	取 組 内 容 の 概 要	今 後 の 計 画 等
教育支援部門	● 岩手県教委及び市町村教委と連携した、小中学生を対象とした放課後支援（学習支援を中心に）事業の実施	● 大槌町をモデルケースとした学習支援活動 ● NPO法人と連携協力した取組
生活支援部門	① ボランティア活動の推進 ▽ 学生及び教職員の被災地へのボランティア派遣 ② 被災者の心のケア ▽ 被災者を心理学的立場からサポート ▽ 音楽会、展覧会、スポーツ大会等の開催 ③ 被災動物の診療 ▽ 訪問診療、獣医学課程学生の派遣などによる被災動物のストレスケアの実施 ④ 地域文化財の保護 ▽ 地域の文化的資産の修復・保存の実施 ⑤ 地域コミュニティの再生 ▽ 地域コミュニティの再生計画、被災地の復興と新たな街の機能の計画策定などの実施	● 「ボランティア論」の開設や体験学習のあり方の再構築などにより、今後の活動を担う人材育成体制を構築 ● 特任教授（臨床心理士）を常駐配置 ・ 児童生徒を含む被災者のケア ・ 地元傾聴ボランティアの人々への、カウンセリングやストレスマネジメントの講習・研修 → 地元の人々によるサポート集団の形成 ● 教育学部の教員、学生、課外活動団体の学生と連携をとり、被災地及び岩手大学において音楽会、展覧会、スポーツ大会等を開催 ● 移動診療活動とともに被災地でのセミナーを継続的に開催 ● 移動家畜診療車による産業動物の診療活動を行い、農林畜産産業復興推進部門と連携し、畜産業の復興も支援 ● 岩手県立博物館と連携して行っている地域の文化的資産の洗浄、乾燥、保存、保管の作業を継続して実施 ● 被災市町村の埋蔵文化財調査の支援を行い、地域文化財の保護を支援 ● 地域防災教育研究部門と連携を取りながらコミュニティ再生のための活動を推進 ● 全学の社会科学系の教員が、専門性を活かして、あらゆる面から街づくり、地域のコミュニティ再生計画に寄与
水産業復興推進部門	● 三陸湾内での水産資源調査・保全、増養殖から、水産加工、機能性の創出、マーケット、水圏食文化、観光までの1次産業、2次産業、3次産業を一体的に教育研究し、6次産業化の推進	● 「三陸産業復興教育研究センター（仮称）」を設置し、北里大学、東京海洋大学、岩手県水産技術センター等との連携の下、海洋を中心とする地域資源を活用した新産業の創出を目指した海洋研究を推進 ● 三陸産業復興教育研究センターにコーディネーターを配置。コーディネーターは三陸地域の拠点都市と連携して、地域産官との合意形成、拠点の研究成果や大学の知識を活用した新ビジネスの創出に向けた活動を積極的に展開
ものづくり産業復興推進部門	● 沿岸地域のニーズを踏まえた研究開発の推進、本学のものづくり技術を活かした新たな新技術・産業の創出、沿岸地域の製造業に携わる技術者の育成などを推進	● CCM合金の加工技術の確立を行うとともに、CCM合金以外の合金への応用展開を推進 ※CCM=コバルトクロムモリブデン ● 沿岸地域における製造業化のニーズと本学における研究シーズとのマッチングを行い、企業における技術開発・製品開発を推進 ● 本学が、北上川流域（北上市、奥州市、花巻市）で実施している高度ものづくり技術者養成（岩手マイスター）を三陸沿岸に展開
農林畜産産業復興推進部門	● 地震・津波により被災した農業・林業・畜産業に対し、本学のこれまで培ってきた研究成果を活かし、農林畜産業の復旧・復興を推進	● 津波により被災した田・畑の土壌、インフラ環境などの調査を行い、最適な改善策を策定し、復旧・復興を推進 ● 高収益性の高い農産物の導入促進、本学の繁殖技術を活かし、畜産農家の活性化の推進 ● 林業現場から流通・加工までの林業システムの復興を支援するとともに、木材の再利用や活用技術を推進 ● 三陸沿岸における特徴的な農産品、自然資源（観光）などを活かしたブランディング戦略を策定し、三陸沿岸の復興、活性化を支援
地域防災教育研究部門	● 今回の震災を踏まえた地震・津波の解析、防災施設の検証と配置計画の策定、防災施設の配置と併せた地域のまちづくり計画の策定を推進 ● 今回の震災を教訓に犠牲者を出さないため、地域における防災教育、防災体制を推進するとともに、地域における防災活動を担う人材の養成を推進	● 地質構造から局所震度を推定する手法の確立や、今回の震災を踏まえた三陸沿岸における津波解析を行い、防潮堤・防波堤や各種建物構造の配置や、地域の地形特性、産業構造、歴史・文化などに配慮した地域計画を検討し、将来的な地域復興をも視野に入れたまちづくり計画の策定を推進 ● 小中学校で使用する防災教育教材を作成するとともに、防災教育を実施、また、防災教材を使用する小中学校の教員を対象とした講演会等の実施。 ● 自主防災組織の核となる町内会を単位として、地域防災を担う人材を養成するとともに、自主防災組織の立ち上げを支援し、組織的な活動を推進

2. 復興推進活動

(1) 震災復興に関する岩手大学の主な活動状況（平成23年10月～平成24年3月） 平成24年3月31日現在

●教育支援部門

	内容	活動場所	期間	従事者数	担当教職員・部署名	備 考
1	学習支援活動 (コラボ・スクール「大槌臨学舎」)	大槌町	12月25日～ 平成24年 2月12日	学生 延べ29名 教員 1名	新妻二男(教育学部)	主催:NPO法人カタリバ 後援:岩手大学、大槌町教育委員会ほか
2	学習支援活動 (高校受験対策講座 タダゼミ)	釜石市	12月25日～ 平成24年 3月4日	学生 延べ29名 教員 1名	新妻二男(教育学部)	主催: NPO法人キッズドア
3	学習支援活動 (宮古市立田老第一中学校)	宮古市	平成24年 1月4日～6日	学生 延べ39名 教員 4名	山崎友子(教育学部) 他	宮古市立田老第一中学校からの要請

●生活支援部門

	内容	活動場所	期間	従事者数	担当教職員・部署名	備 考
●学生ボランティア						
1	陸前高田市災害ボランティアセンター運営支援、みちくさルーム(子どもを対象とした遊び場の提供)の運営支援等	陸前高田市	4月7日～	学生 延べ330名 教員 延べ7名	松木佐和子(農学部)他 「もりもり☆岩手」(学生ボランティア団体)	
2	宮古市内の支援ニーズ調査、屋内片付け、地域のイベント運営支援等	宮古市	4月13日～	学生 延べ565名 教職員 延べ70名	名古屋恒彦(教育学部)他 「天気輪の柱」(学生ボランティア団体)	活動拠点: 盛岡YMCA宮古ボランティアセンター
●教職員ボランティア						
3	釜石市災害ボランティア(がれき撤去等)	釜石市	9月17日～ 10月29日	職員 延べ30名	名古屋恒彦 (教育学部)	主催:NPO法人hands
●スポーツ活動支援						
4	スポーツ・レクリエーションの実施	岩手県 沿岸市町村	1月～	—	岩手大学スポーツユニオン 地域連携推進センター	各市町村の福祉担当部署 や社会福祉協議会と連携 してイベントを開催
●心のケア						
5	「いわて子どもの心のサポートチーム」への参加(教員研修会、トラウマ反応査定調査の作成・分析、「心のサポート授業」案作成、コンサルテーション等)	岩手県内 各市町村	4月～ 平成24年3月	教員 1名	山本 奨(教育学部)	主催:岩手県教育委員会 計35回活動
6	岩手県立釜石高校及び大槌高校への スクールカウンセラー派遣	釜石市 大槌町	9月～ 平成24年3月	教員 7名	〈釜石高校〉 立原聖子(班長) (保健管理センター) 豊田洋子 (保健管理センター) 加藤義男(名誉教授) 〈大槌高校〉 山口 浩(班長) (人文社会科学部) 織田信男 (人文社会科学部) 早坂浩志 (保健管理センター) 山本 奨(教育学部)	釜石高校に19回、大槌高校に25回派遣。 平成24年度も、釜石高校は立原、豊田の2名がそれぞれ月1回(高校としては月2回)、大槌高校は、山口、織田、早坂、山本がそれぞれ月1回(高校としては毎週1回月4回)スクールカウンセラーとして支援する予定
7	リラクゼーション研修会の開催	釜石市	平成24年1月 12日、26日	教員 3名 学生 1名	山口 浩 (人文社会科学部)	
8	被災した子どもの心のケア研修会講師	一関市	平成24年 2月14日	教員 1名	早坂浩志 (保健管理センター)	岩手県保健福祉部児童家庭課からの要請
●被災動物支援						
9	「被災動物なんでも相談会」の開催	大船渡市	12月23日	教職員 5名	佐藤れえ子 (動物病院長)	
10	平成23年度日本獣医師会獣医学術学会年次大会(北海道) 講演 (テーマ:被災伴侶動物に対する救護活動と被災獣医師に対する支援活動)	北海道	平成24年 2月3日	教員 1名	佐藤れえ子 (動物病院長)	
●文化財保護支援						
11	陸前高田市立図書館所蔵「吉田家文書」(県指定文化財)の分類・整理への協力	岩手県立 博物館	平成23年 10月1日～	教員 1名	菅野文夫(教育学部)	岩手県立博物館に協力

	内容	活動場所	期間	従事者数	担当教職員・部署名	備 考
12	大槌町における被災文化財の調査と救出	大槌町	平成23年10月19日、20日、29日、30日、11月5日、6日	教員 2名 学生 12名	佐藤由紀男(教育学部) 菅野文夫(教育学部)	大槌町教育委員会と連携 平成24年2月29日 既調査分の調査報告書を刊行
13	大槌町で救出した前川家資料の分類・整理への協力	岩手県立博物館	平成23年11月1日～	教員 1名	菅野文夫(教育学部)	岩手県立博物館に協力
14	文化財ボランティア養成講座 講演(テーマ:東日本大震災の文化財被災)	静岡県	平成24年2月18日～	教員 1名	佐藤由紀男(教育学部)	主催:静岡県浜松市文化財課 岩手大学の文化財保護支援活動の紹介を主として講演
15	岩手歴史民俗ネットワーク「岩手県上閉伊郡大槌町被災文化財確認調査報告書」の刊行	—	平成24年3月	教員 2名 (同ネットワーク事務局)	佐藤由紀男(教育学部) 菅野文夫(教育学部)	
●地域コミュニティ再建支援						
16	東日本大震災復興構想会議 検討部会委員	東京都	4月11日～平成24年2月10日	教員 1名	廣田純一(農学部)	6月25日、構想会議「復興への提言」発表 平成24年2月10日、復興庁設置に伴い会議廃止
17	岩手県東日本大震災津波復興委員会 総合企画専門委員会 委員	岩手県	4月22日～	教員 2名	廣田純一(農学部) 南 正昭(工学部)	8月11日、「岩手県東日本大震災津波復興計画」を策定
18	山田町東日本大震災津波復興策定委員会 委員	山田町	5月9日～12月	教員 1名	三宅 諭(農学部)	12月、復興計画策定
19	避難生活調査	大槌町	9月中旬～11月	教員 3名 学生 20名	菱倉 哲(教育学部) 梶原昌五(教育学部)	12月3日、大槌町にて報告会開催
		山田町	平成24年2月18日～	教員 2名 学生 9名		
		盛岡市(講演)	平成24年2月16日	教員 2名		いわてNPOフォーラム21主催のイベントにて、調査活動について講演
20	大槌町復興まちづくり創造懇談会 アドバイザー	盛岡市	10月1日～平成24年3月31日(予定)	教員 1名	井上博夫(人文社会科学部)	
21	「高輪地区防災フォーラム」 基調講演(テーマ:震災復興と地域づくり)	東京都	11月3日	教員 1名	廣田純一(農学部)	
22	盛岡市 東日本大震災盛岡市復興推進アドバイザーボード 座長	盛岡市	11月18日～平成26年3月(予定)	教員 1名	廣田純一(農学部)	
23	2011年度農村計画学春期シンポジウムでの発表	盛岡市	平成24年1月7日、8日	教員 1名	廣田純一(農学部)	同会において、堺茂樹工学部長が講演(地域防災教育研究部門の活動No.11参照)
24	「復興まちづくり研究室」の設置	宮古市	平成24年3月11日(設置日)	教員 1名	南 正昭(工学部)	工学部社会環境工学科都市計画学研究室の田老分室として、グリーンピア三陸みやこ内に設置
25	岩手県、政策研究大学院大学主催「岩手復興フォーラム」でのパネルディスカッション(テーマ:安全・暮らし・なりわいの再生)	東京都	平成24年3月26日	教員 1名	廣田純一(農学部)	

●水産業復興推進部門

	内容	活動場所	期間	従事者数	担当教職員・部署名	備 考
1	三陸水産業の復興と地域の持続的な発展に向けた3大学連携推進に関する基本合意締結	—	10月30日～	学長	藤井克己(学長)	東京海洋大学及び北里大学と基本合意(協定)締結。10月30日、釜石市内にて調印式開催
2	三陸水産業の復興に向けた3大学連携推進シンポジウム	釜石市	10月30日	理事・副学長 1名 教員 1名	岩淵 明(理事・副学長) 三浦 靖(農学部)	東京海洋大学及び北里大学との共催
3	三陸沿岸の海洋生態系研究	大槌町(研究拠点)	12月～	教員 10名	牧 陽之助(人文社会科学部)他	文部科学省「東北マリンサイエンス拠点形成事業」採択事業 東京大学と連携して実施
4	「全国水産系研究者フォーラム」の開催	釜石市	平成24年1月7日	理事・副学長 1名(講演者)	岩淵 明(理事・副学長)	東京海洋大学及び北里大学との共催
5	水産業者との車座研究会の開催	釜石市	平成24年2月15日	理事・副学長 1名 教職員 11名	岩淵 明(理事・副学長)	

●ものづくり産業復興推進部門

	内容	活動場所	期間	従事者数	担当教職員・部署名	備 考
1	金型加工技術者育成実践研修の開催(共催) (被災求職者や被災企業在职者等を対象)	北上市	11月～12月	—	工学部附属ものづくり融合化センター 地域連携推進センター	北上オフィスプラザと共催

●農林水産業復興推進部門

	内容	活動場所	期間	従事者数	担当教職員・部署名	備 考
1	岩手県内における放射能汚染対策					
	牧草の放射性セシウム検査及び情報提供	岩手県内各市町村	6月1日～	教員 1名 学生 2名	築城幹典(農学部)	
	文部科学省による航空機モニタリングの結果に岩手県の測定値を追加して東北～北関東地域の空間線量率マップ作成		10月7日			
2	岩手県原発放射線影響対策本部 アドバイザー就任	岩手県	9月1日～	副学長 1名 教員 2名	西崎 滋(副学長) 佐藤 至(農学部) 築城幹典(農学部)	
3	エコハウス建設への協賛	山田町 大槌町 (建設場所)	9月～12月	教員 1名	関野 登(農学部)	床と屋根のパネルに「復興ボード」を使用
4	「日本木材加工技術協会木質ボード部会シンポジウム」講演(テーマ:震災廃木材を再資源化した「復興ボード」の生産・活用支援プロジェクト-岩手沿岸地域の木材関連産業の復興と雇用創出を目指して-)	東京都	10月7日	教員 1名	関野 登(農学部)	

●地域防災教育研究部門

	内容	活動場所	期間	従事者数	担当教職員・部署名	備 考
1	岩手県東日本大震災津波復興委員会津波防災技術専門委員会 委員長・委員	岩手県	4月22日～	教員 3名	堺 茂樹(工学部) ※委員長 南 正昭(工学部) 山本英和(工学部)	8月11日、「岩手県東日本大震災津波復興計画」を策定
2	岩手県東日本大震災津波復興委員会総合企画専門委員会 委員	岩手県	4月30日～	教員 2名	廣田純一(農学部) 南 正昭(工学部)	8月11日、「岩手県東日本大震災津波復興計画」を策定 ※再掲
3	山田町東日本大震災津波復興計画策定委員会 委員	山田町	5月9日～12月	教員 1名	三宅 諭(農学部)	12月、復興計画策定 ※再掲
4	野田村東日本大震災津波復興計画策定委員会 委員	野田村	6月23日～11月	教員 1名	堺 茂樹(工学部)	11月、復興計画策定
5	自然講座「自然災害から学ぶ-地震・津波・火山」での講演(テーマ:地震の発生、津波の発生、地震と岩手山火山との関連について)	滝沢村	10月8日、15日、11月12日	教員 1名	土井宣夫(教育学部)	主催:滝沢村教育委員会
6	「工学フォーラム2011」パネルディスカッション(テーマ:災害に強い社会づくり～最新の研究から～)パネリスト	福岡県	10月22日	教員 1名	西谷泰昭(工学部)	
7	日本土地環境学会 一般公開シンポジウム「震災復興の現状と課題」での基調報告(テーマ:岩手三陸における復興まちづくり)	盛岡市	10月29日	教員 1名	南 正昭(工学部)	
8	民主党2011年度地方自治体議員フォーラム全国研修会・総会 講演(テーマ:東日本大震災 その時、地方議員に何ができたか)ゲストアドバイザー	東京都	11月7日	教員 1名	南 正昭(工学部)	
9	日本学術会議東北地区会議主催 2011年度公開学術講演会 講演(テーマ:岩手県沿岸での小中学校の津波防災教育と東日本大震災における避難行動)	盛岡市	11月11日	教員 1名	堺 茂樹(工学部)	
10	岩手県河川・海岸構造物の復旧等における環境・景観検討委員会 委員長・委員	岩手県	11月17日～	教員 2名	南 正昭(工学部) ※委員長 竹原明秀(人文社会科学部)	
11	公開シンポジウム「岩手三陸復興まちづくりに向けて」の開催	岩手大学	12月15日	教員 1名	南 正昭(工学部)	
12	2011年度東北地域災害科学研究集会講演(テーマ:岩手県におけるこれまでの津波防災対策とその効果の検証)	盛岡市	平成24年1月7日、8日	教員 1名	堺 茂樹(工学部)	同会において、広田純一教授(農学部)がヒアリング調査結果報告(生活支援部門の活動No.22参照)
13	震災から学ぶ生涯学習フォーラム基調講演(テーマ:岩手三陸における復興まちづくりに向けて)	久慈市	平成24年1月28日	教員 1名	南 正昭(工学部)	
14	東日本大震災での避難行動についてのアンケート実施(対象:沿岸12市町村の小中学校180校)	岩手県沿岸市町村	平成24年1月	—	工学部附属地域防災研究センター	岩手県と合同で実施 今後の防災活動に役立てるため、結果を分析
15	大船渡港湾口防波堤復旧に関する水質保全対策検討会 座長	大船渡市	平成24年2月13日～3月16日	教員 1名	堺 茂樹(工学部)	国土交通省主催の検討会

	内容	活動場所	期間	従事者数	担当教職員・部署名	備 考
16	「復興まちづくり研究室」の設置	宮古市	平成24年 3月11日 (設置日)	教員 1名	南 正昭(工学部)	工学部社会環境工学科都市 計画学研究室の田老分室と して、グリーンピア三陸み やこ内に設置 ※再掲

●その他の活動

	内容	活動場所	期間	従事者数	担当教職員・部署名	備 考
1	WITH(ウィズ)ーいわて三陸震災復興 支援チームによる活動	岩手県	3月28日～	教職員、学生有志	南 正昭(工学部)	
2	被災学生を対象とした、入学料、授業 料、寄宿料の免除・減額	—	平成23年度～	—	学生支援課	
3	復興支援ボランティア活動の単位認定	—	平成23年度～	—	学生支援課	文部科学省通知(4月1日 付け)を踏まえた措置 ①事前研修、②一定の活動 時間(45時間)、③ふり返り レポートの提出、の3要件を 満たした場合に単位認定
4	久慈市からの要望に対する対応 1.被災地域のコミュニティの再生 2.大津波の分析及び今後の津波防災について 3.地域コミュニティの在り方に関する調査 4.復興計画案に対する助言 5.災害廃棄物の早期処分について 6.農業における革新的塩害対策の研究 7.被災後の農山漁村の活性化について 8.震災後の森林等の海底及び地質変動調査について	久慈市 岩手大学	5月30日～	教員 5名	麥倉 哲(教育学部) 堺 茂樹(工学部) 晴山 渉(工学部) 河合成直(農学部) 木下幸雄(農学部)	5月30日に久慈市に対し て、それぞれの要望事項 に対応する教員を報告 現在活動中
5	セシウム除去に関する基礎的検証の発表	大阪府 愛知県 宮城県ほか	9月5日～	教員 9名 学生 4名	西川尚宏(工学部)他	セシウム除去に関する研究 成果を各種国際・全国・地方 学会などで報告。10月21 日の宮城県での講演では、 優秀講演奨励賞を受賞
6	サテライト施設(釜石サテライト)の設置	釜石市 (設置場所)	10月1日～	職員 4名	三陸復興推進本部	(所在地) 釜石市鈴子町15番2号 釜 石市教育センター5階
7	花巻市政調査会 「放射性物質の影響を考える学習会」での講演	花巻市	10月13日	教員 1名	佐藤 至(農学部)	
8	報告会「復興に向けた岩手大学の取組 ー『岩手の復興と再生に』オール岩大 パワーをー」の開催	岩手大学	10月23日	教員 5名 (講演者)	岩淵 明(理事・副学長) 廣田純一(農学部) 牧 陽之助 (人文社会科学部) 名古屋恒彦(教育学部) 関野 登(農学部)	
9	食の安全安心講座での講演 (テーマ:食品の放射性物質と健康への影響)	山形県	10月28日	教員 1名	佐藤 至(農学部)	
10	中央公民館利用団体協議会主催「講演 を聞く会」講演(テーマ:福島原発事故 と放射能・放射線について)	盛岡市	11月5日	教員 1名	西崎 滋 (人文社会科学部)	
11	ママハウスでのボランティア	釜石市	11月5日	学生 3名	男女共同参画推進室	ママハウスからの要請
12	全国生涯学習ネットワークフォーラム のパネリスト、運営補助	東京都 山田町	11月 5日、6日	学生 11名 教職員 7名	名古屋恒彦 (教育学部) 地域連携推進センター	
13	被災地の子ども、保護者、教員のメン タルヘルスについての研修会、相談会	宮古市	11月6日	教員 1名	我妻則明(教育学部)	
14	English Campの実施	滝沢村	11月12日～ 13日	学生16名 (うち留学生8名) 教員2名	尾中夏美 (国際交流センター)	米国アーラム大学との共催事 業 宮古市、釜石市、田野畑 村の中学生を23名招き、英語 のみによる体験学習を実施
15	仙台市食の安全トップセミナーでの講演 (テーマ:食品の放射能汚染と健康への影響)	宮城県	11月17日	教員 1名	佐藤 至(農学部)	
16	「理科授業の化学実験」学習支援活動 (岩手県立高田高等学校)	大船渡市	11月18日	学生 7名 教員 2名	平原英俊(工学部) 會澤純雄(工学部)	岩手県立高田高等学校から の要請
17	被災高校生を対象とした入試の実施	岩手大学	11月22日	—	工学部	被災した平成24年3月卒 業予定の高校生を対象に 特別選抜を実施
18	ソーシャルメディア活用方法に関する 講演(求職者支援訓練の一環として)	釜石市	11月28日	教員 1名	五味壮平 (人文社会科学部)	
19	岩手の牛肉安全安心フォーラムでの講演 (テーマ:放射線の基礎と健康への影響について)	盛岡市	12月9日	教員 1名	佐藤 至(農学部)	
20	被災学生の就職支援 (企業合同説明会会場への送迎バス運行)	東京都など	12月11日～ 平成24年 1月8日	—	キャリア支援課	東京都、千葉県、宮城県な どで開催された企業合同 説明会への送迎のため、 バスをチャーターし運行

	内容	活動場所	期間	従事者数	担当教職員・部署名	備 考
21	平成23年度高大連携「ウインターセッション」での講義 (テーマ:震災復興と大学の力)	岩手大学	12月 25日、26日	教員 5名(講師)	堺 茂樹(工学部) 小笠原敏記(工学部) 廣田純一(農学部) 土井宣夫(教育学部) 井上博夫(人文社会科学部)	
22	平成24年度大学入試センター試験 釜石会場の運営	釜石市	平成24年1月 14日、15日	—	入試課	被災受験生の負担軽減のため、県立釜石高校に臨時会場を開設
23	被災受験生を対象とした、入試検定料の免除	—	平成24年度 入試	—	入試課	
24	岩手大学公開講座 工学部教養講座「東日本大震災について考える」	北上市	平成24年 1月21日	教員 2名 (講演者)	小笠原敏記(工学部) 南 正昭(工学部)	
25	広報用ニュースレター「岩手大学震災復興推進レター」の発行	—	平成24年 1月～ (毎月未発行予定)	—	総務広報課	県内市町村、沿岸漁協ほか関係機関等に広く配布 本学ホームページからダウンロード可
26	花巻市市民講演会での講演 (テーマ:放射性物質と食品)	花巻市	平成24年 2月5日	教員 1名	佐藤 至(農学部)	
27	宮古市内の幼稚園訪問、園児と交流	宮古市	平成24年 2月14日	学生 8名(留学生) 教員 1名	岡崎正道 (国際交流センター)	
28	国際研修「絆」 in IWATE の実施	釜石市 陸前高田市	平成24年 2月27日～ 3月2日	学生24名 (うち海外学生 12名) 教員2名	尾中夏美 (国際交流センター) 松岡洋子 (国際交流センター)	本学学生と海外協定校から招へいした学生が、被災地視察や被災者等からの講義などを通じて防災のあり方を考えるとともに、釜石市内の小学校や児童館を訪問し、国際交流活動を行った。
29	奥州市地域ぐるみ防災セミナーでの講演 (テーマ:東北地方太平洋沖地震とその余震について～4月7日の東北地方太平洋沖地震の余震時の奥州市における高密度アンケート調査～)	奥州市	平成24年3月 10日	教員 1名	山本英和(工学部) 工学部付属地域防災 研究センター	
30	シンポジウム「東日本大震災からの復興の現状とこれから～人の多様性の視点から～」の開催	岩手大学	平成24年 3月16日	—	男女共同参画推進室	男女共同参画推進室の復興支援の取り組みや今後の課題について報告を行った。(参加者 約50名)
31	日本科学未来館・日本化学会主催 さわって遊べる展覧会「きみたちの魔法 科学新発見」の共催・運営支援	大槌町	平成24年 3月18日～ 20日	理事・副学長 1名 教職員 延べ44名 学生等 延べ18名	小川智(理事・副学長) 成田榮一(工学部)他 工学系技術室	3日間で619名が来場
32	「奥州市地震調査研究中間報告会」の開催	奥州市	平成24年 3月20日	教員 2名 (講演者)	土井宣夫(教育学部) 山本英和(工学部) 工学部付属地域防災 研究センター	主催: 奥州市災害対策本部 岩手大学 岩手大学工学部付属地域 防災センター
33	「男女共同参画の視点をふまえた復興支援の取り組み 報告書」の発行	—	平成24年3月	—	男女共同参画推進室	
●各種委員会等への参画						
34	岩手県東日本大震災津波復興委員会 委員長	岩手県	4月11日～	学長	藤井克己(学長)	8月11日、「岩手県東日本大震災津波復興計画」を策定
35	岩手県原発放射線影響対策本部 アドバイザー	岩手県	9月1日～	教員 3名	西崎 滋(人文社会科学部) 佐藤 至(農学部) 築城幹典(農学部)	
36	東北農政局 食料・農業分野における災害復興に向けた専門家会議 委員	宮城県	9月13日～	教員 3名	長澤孝志(農学部長) 小野寺英輝(工学部) 佐藤 至(農学部)	
37	三菱UFJリサーチ&コンサルティング 株式会社 平成23年度木質系震災廃棄物等の活用可能性調査(岩手県域調査)検討委員会 委員	東京都	10月1日～ 平成24年 3月9日	教員 3名	岡田秀二(農学部) 伊藤幸男(農学部) 小野寺英輝(工学部)	
38	岩手県災害廃棄物処理業務プロポーザル 審査委員会 委員	岩手県	10月4日～ 12日	教員 1名	中澤 廣(工学部)	
39	岩手県放射線内部被ばく健康影響調査 有識者会議 座長・委員	岩手県	平成24年 1月13日～ 3月31日	副学長 1名 教員 1名	西崎 滋(副学長) ※座長 佐藤 至(農学部)	
40	岩手県被災者健康支援事業運営協議会 委員	岩手県	平成24年2月 8日～平成25 年3月31日	教員 1名	立身政信 (保健管理センター)	

※10月以前から継続している活動も一部含む。

※活動場所について、都道府県名のない市町村は、すべて岩手県内の市町村。

※期間について、年表記のないものは、すべて平成23年。

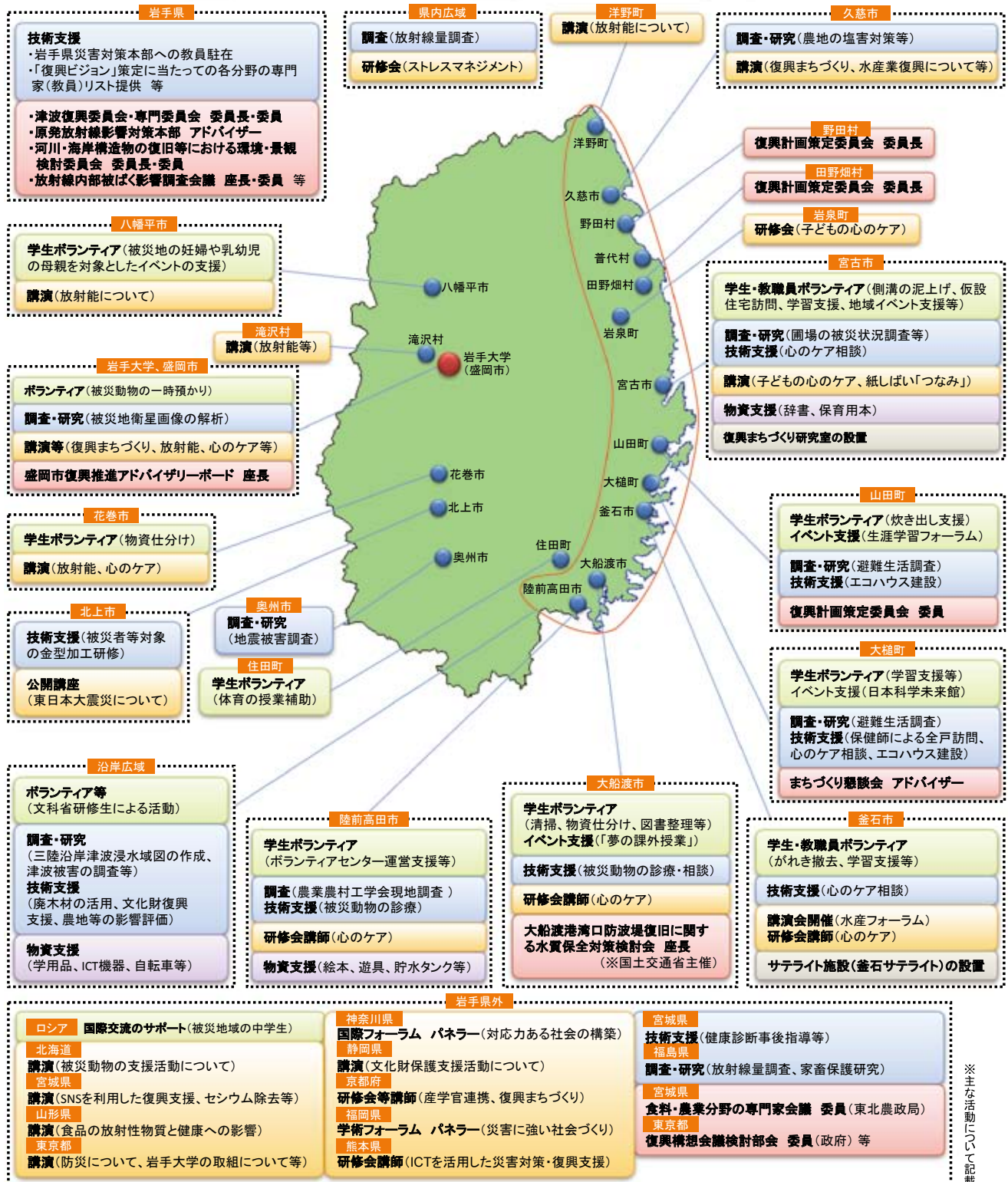
※担当教職員名について、所属・役職はいずれも当時のもの。

岩手大学三陸復興推進活動MAP

平成24年3月31日現在

凡 例

- ・・・ボランティア活動、イベント支援
- ・・・調査・研究、技術支援
- ・・・講演、研修会講師
- ・・・有識者会議への参画
- ・・・物資支援
- ・・・その他



※主な活動について記載

国土地理院承認 平14 総複 第149号 地図画像提供:白地図KenMap

(2) 釜石サテライト、各エクステンションセンターの設置について

平成24年4月3日現在

【目的】

平成23年3月11日に発生した東日本大震災により破壊的なダメージを受けた三陸沿岸について、本学がこれまで培ってきた教育研究機能を活かし、産学官連携のもと、「生活復興支援」、「産業復興支援」、「地域防災拠点形成」の3つの柱を立て、全学を上げて復興を支援し推進する。

【役 割】

- 「釜石サテライト」は、各市町村の担当部署と連携して、被災者・被災企業・各市町村の支援ニーズを把握し、岩手大学（連携大学を 含む）の持つシーズとのマッチングを図りながら事業を展開する。
- 「エクステンションセンター」は、岩手大学・釜石サテライト・関係市町村等と連携・協力し、三陸沿岸の復興と 力あるまちづくりを支援し推進する。

【業務内容】

- 被災地からの支援ニーズの収集
- 被災地への岩手大学のシーズの情報提供とマッチング
- 沿岸市町村、学校、 協、企業などとの連絡調整
- 岩手大学と連携して各種支援の企画立 や復興プロジェクトなどの推進

【組織】

- 釜石サテライト常駐職員
 - ・特 教授（臨 心理士）（1名）
 - ・コーディネーター（1名）
 - ・常勤職員（2名）
 - ・非常勤職員（1名）
- エクステンションセンター
 - ・コーディネーター（各センター1名）（平成24年4月現在）

【設置場所及び設置時期】

- 釜石サテライト
 - ・釜石市教育センター5（平成23年10月1日開所）
 - ※平成25年3月開所予定の岩手大学復興支援センター（仮称）に移設予定
- エクステンションセンター
 - ・久慈市役所 総合政策部産業開発課内（平成24年4月3日開所）
 - ・宮古市 } 今後設置予定
 - ・大船渡市 }



岩手大学三陸復興推進機構 釜石サテライト（H23.10.1設置）

住所：〒026-0031 釜石市鈴子町15番2号 釜石市教育センター5階
電話：0193-22-4420 FAX：0193-22-4418
E-mail：kamaishi@iwate-u.ac.jp

スタッフ

産学官 コーディネーター	臨床心理士 特任准教授	事務職員 特命課長	事務職員 主事	事務職員 事務補佐員
田村 直司	佐々木 誠	佐藤 貢	志田 智門	井上 英里

岩手大学三陸復興推進機構 久慈エクステンションセンター（H24.4.3設置）

住所：〒028-8030 久慈市川崎町1番1号 久慈市役所
総合政策部 産業開発課内
電話：090-2953-2519 E-mail：kujixext@iwate-u.ac.jp

スタッフ

産学官 コーディネーター
川尻 博



久慈エクステンションセンター開所式
（平成24年4月3日）
山内久慈市長（左）と藤井岩手大学長

(3) 釜石サテライトの活動紹介

「釜石サテライトの使命」－明日が今日より一寸良くなるために－

三陸復興推進本部釜石サテライト 特命課長 佐藤 貢

平成23年10月の釜石サテライト設置以降、私たちスタッフは、三陸沿岸の各自治体、漁業協同組合をはじめとした水産関係機関、水産加工業を主とした民間企業を何度となく訪問しました。

当初は、被災から立ち上がることに手が一杯で、漁業をしたくても船が無いなど、復興の段階ではなく、まだ、復旧の段階であると感じました。そんな中で、岩手大学が釜石市にサテライトを置き、職員を常駐させたことは、被災地域の皆さんに対して岩手大学が復興に本気で取り組むのだというメッセージとなり、その姿勢の現れとしてサテライトを設置したことが大きな期待となって捉えられていることを痛感しました。

被災地復興には、とりわけ水産業の復興が無ければ、震災前から抱えていた人口流出や担い手の不足などの問題が震災の影響により加速したことから、社会システムが崩壊しかねない状況となっています。

釜石サテライトでは、水産業に関係するシンポジウムやフォーラムの開催、漁業関係者との車座研究会の実施、企業の訪問による情報の収集など様々な取組を行う中で、課題を一つ、二つと解決していくこととしました。

その一つの手段として、「ホシガレイの陸上養殖」について（社）岩手県栽培漁業協会と釜石サテライト（田村直司産官学連携コーディネーター）が共同でその可能性の調査・研究をしています。各自治体の復興計画においては、漁港の後背地（浸水想定地域）の活用方法が大きな問題となっておりますが、陸上養殖は、その解決手段のひとつです。超高級魚であるホシガレイの陸上養殖が事業採算をクリアし、三陸沿岸の新たな事業として展開できる日が早く来るよう、サポートしています。

また、平成24年2月に開催した車座研究会では、漁業の担い手が高齢化していることから、「塩蔵ワカメの自動芯抜き装置」などの省力化措置の開発を岩手大学に期待する声が、数多く聞かれました。省力化装置の開発は、高齢の漁業者が「生き甲斐」として、長く漁業に携われることを可能にすることからも重要な



車座研究会

ことです。被災者、漁業者の皆さんの声を伺うこのような機会を、沿岸各地で開催することが釜石サテライトの一つの使命ですので、引き続き、車座研究会の開催を計画しています。

被災地における本学教職員及び学生の復興支援活動をサポートすることも、釜石サテライトの大きな役割です。各種活動における自治体及び連携機関との事前調整や、釜石市から本学の教職員及び学生のための宿泊施設としてお貸し頂いた釜石宿舎の管理運営を行うことなどが、この業務に当たります。宿泊事情が悪い被災地域において、日帰りせずに済むことは、片道2時間半の時間的ロスが無くなり、調査・研究、ボランティア活動にその分の時間を傾けることができます。釜石市のご好意に感謝しています。

関係機関との連携も、釜石サテライトの大事な業務です。岩手県、釜石市、大槌町、岩手県水産技術センター等の実務者が集まり、各機関が行う復興支援事業について情報共有を重ねています。

釜石サテライトには、平成23年10月の設置以来、三陸沿岸の復興のために、岩手大学の復興支援事業

のためにと、全国の国公立大学や民間企業から様々な支援の申し出をいただいております。非常に有難いことです。この善意を本学の事業とマッチングさせるべく、対応することも釜石サテライトの大きな業務です。

一方、全国の研究者の方々から、被災地でのネットワーク化について、釜石サテライトにお願いしたいとの声が多く寄せられています。既に同様の調査が行われているなど、被災者に迷惑となっていることもあるので、情報の共有化を望む声があります。釜石サテライトでは、マンパワーの問題があり出来ることは限られますが、そのような事に対しては『復興のため釜石サテライトを是非活用していただきたい』とお話しています。復興が10年20年と長期に及ぶであろうことから、全国の支援の力をネットワーク化することは、三陸沿岸のため、本学の復興支援事業のために必要です。被災地に存在する岩手大学として、釜石サテライトとして、ネットワーク形成の中心的役割を果たす覚悟です。

釜石サテライトは、平成24年度から、エクステンションセンターを久慈市、宮古市、大船渡市に設置予定であり、コーディネーターを各センターに順次配置し、より多くの被災地の声を汲み上げることが出来る体制となります。さらに、釜石サテライトにカウンセラー1名が配置となります。震災から1年が過ぎ「心のケア」の重要性が求められているこの時期に正に対応した増員となります。

釜石サテライトは、三陸沿岸復興の活動拠点として、その役割が大きなものとなるよう、被災者の期待に応えられるよう、上田キャンパスと連携して復興を推進します。

3. 11のあの悔しい情景を忘れずに、「三陸沿岸の復興と再生のため」、「岩手の復興と再生のため」、改めてオール岩大パワーを集結しましょう。

東日本大震災1周年に、釜石サテライトに届いたメモリアルグッズです。

私たちは、あきらめません！



三陸鉄道メモリアル切符